

# 海況速報

平成 11 年度 第 5 号 (通算 No.71)

平成 11 年 12 月 22 日

北海道立水産試験場



内容についてのお問い合わせは  
中央水産試験場 海洋環境部  
Tel 0135-23-4020

海洋環境部ホームページでもごらんになれます。

アドレス：<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/central/kaiyou/index.htm>

## 12月上旬の海況

☆日本海海域

### 積丹半島沖 2 つ玉暖水渦？！

本道西岸日本海海域では、荒天のため積丹半島沖および岩内沖観測線以外の観測はできませんでした。限られた情報から推定すると、対馬暖流は岩内沖から西側沖合へ向かい、前回 10 月に積丹半島沖にあった暖水渦の西の縁に沿って流れているようです。衛星画像からは、前回 10 月に引き続いて積丹半島西方に 2 つの暖水渦があることがわかります。

水温について、各調査線毎に累年平均(\*1)と比較すると、北緯 43 度 30 分では、石狩湾湾口部 (東経 141 度 00 分) で表面 +1.2℃, 50m 層 +0.4℃, 積丹岬北西沖定点 (東経 140 度 20 分) で、表面 +0.6℃, 50m 層 +0.7℃, 100m 層 +0.3℃, 200m 層 -0.8℃となっています。

余市における 10 月下旬以降 12 月上旬までの沿岸水温 (旬平均) は、平年値に比べ、10 月下旬は +0.8℃と「やや高い」でしたが、11 月上旬から 12 月上旬までは、+0.1~-0.8℃と「平年並み」から「やや低い」で推移しています。

☆道東太平洋海域

### 大型暖水塊東へ

前回 (10 月) に道東沖にあった暖水塊 (中心: 200m 層 11℃以上) は、北縁の位置はあまり変わらず (北緯 41 度 30 分), 中心位置が東へ約 50 海里移動し、東経 145 度 15 分付近にあります。この暖水塊の西の縁に沿って水温の高いところが南西から北東へ向かって伸びています (例えば、50m 層で 13℃以上の部分)。

水温についてみると、道東沿岸 50m 層でもっとも岸寄りとなる定点の水温は、厚岸沖 (北緯 42 度 55 分, 東経 145 度 00 分) で 10.2℃ (累年平均比 +2.4℃, 前年比 +0.1℃), 白糠沖 (北緯 42 度 45 分, 東経 144 度 00 分) で 9.6℃ (累年平均比 +1.7℃, 前年比 -0.2℃) となっています。50m 層ではありませんが、根室半島沖 (北緯 43 度 05 分, 東経 145 度 45 分) の表面では、7.8℃ (累年平均比 +0.2℃, 前年比 -2.7℃) と低くなっています。

☆道南太平洋海域

### 津軽暖流が渦モード

道南太平洋海域では、100m 層 10℃以上の水に広く覆われていることから、津軽暖流は前回に引き続き渦モード (\*2) となっているようです。100m 以浅では海域全体に津軽暖流の影響が強く現れていますが、200m 層では日高沿岸から噴火湾口にかけて親潮の影響の強い水温 4℃以下の水が分布しています。

水温について、各調査線毎に累年平均(\*1)と比較すると、浦河南西方観測線では、浦河沿岸の定点

(北緯 42 度 10 分) で表面  $-0.5^{\circ}\text{C}$ 、50m 層  $+0.3^{\circ}\text{C}$ 、100m 層  $+1.3^{\circ}\text{C}$  となっています。白老南方観測線では、白老沿岸の定点 (北緯 42 度 20 分) で表面  $+0.6^{\circ}\text{C}$ 、50m 層  $+0.9^{\circ}\text{C}$ 、100m 層  $+0.5^{\circ}\text{C}$ 、200m 層  $-0.6^{\circ}\text{C}$  となっています。

恵山岬東側定点 (北緯 41 度 50 分) では、表面  $\pm 0.0^{\circ}\text{C}$ 、50m 層  $+0.8^{\circ}\text{C}$ 、100m 層  $-0.6^{\circ}\text{C}$ 、200m 層  $-0.4^{\circ}\text{C}$  となっています。下北半島北側定点 (北緯 41 度 30 分) では、表面  $-1.0^{\circ}\text{C}$ 、50m 層  $+0.2^{\circ}\text{C}$ 、100m 層  $+0.2^{\circ}\text{C}$ 、200m 層  $-1.3^{\circ}\text{C}$  となっています。

## ☆オホーツク海海域

### 東カラフト寒流接岸

荒天により、紋別沖観測線より東側海域の観測が行えませんでした。宗谷暖流は、表面では (ここでは  $6^{\circ}\text{C}$  以上) 浜頓別沖まで見ることはできますが、さらに東側では潜流となって流れており、紋別沖でも宗谷暖流の潜流が底層付近に確認できます。また、紋別沖の表層では、沖合から低温で低塩な東カラフト寒流に広く覆われています。

水温についてみると、もっとも岸よりの表面水温は、浜頓別沿岸部で  $9.1^{\circ}\text{C}$  (累年平均比  $+3.2^{\circ}\text{C}$ 、前年比  $+1.8^{\circ}\text{C}$ )、紋別沿岸部で  $1.5^{\circ}\text{C}$  (累年平均比  $-2.7^{\circ}\text{C}$ 、前年比  $-2.7^{\circ}\text{C}$ ) となっています。もっとも岸よりの 50m 層水温は、浜頓別沿岸部で  $7.3^{\circ}\text{C}$  (累年平均比  $-0.3^{\circ}\text{C}$ 、前年比  $-1.0^{\circ}\text{C}$ )、紋別沿岸部で  $2.3^{\circ}\text{C}$  (累年平均比  $-4.5^{\circ}\text{C}$ 、前年比  $-4.4^{\circ}\text{C}$ ) となっています。

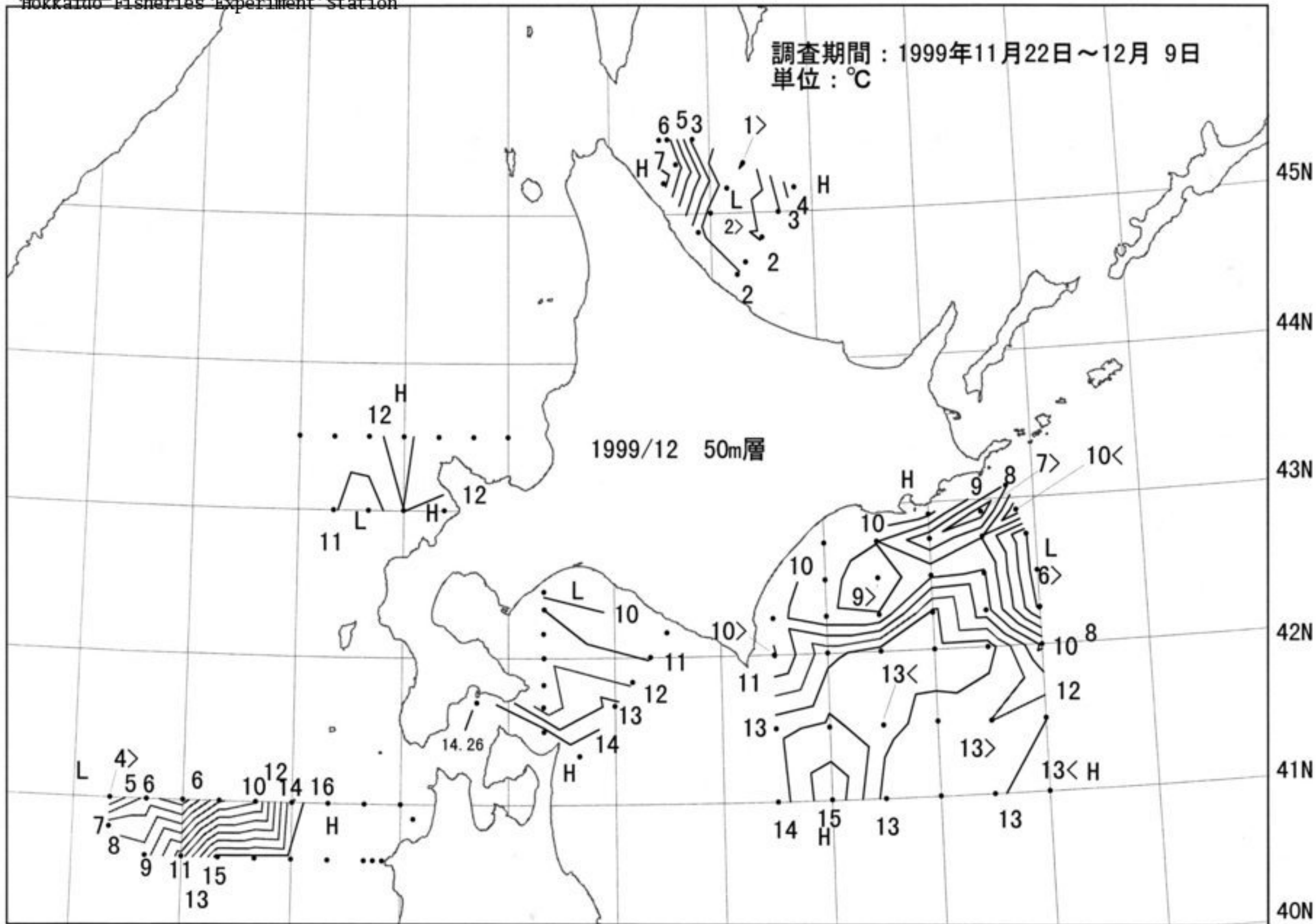
| 資料            | 観測期間                           |            |
|---------------|--------------------------------|------------|
| 青森水試 (東奥丸)    | 平成 11 年 12 月 1 日から同 12 月 4 日   | (東北日本海海域)  |
| 稚内・中央水試 (北洋丸) | 平成 11 年 12 月 1 日から同 12 月 2 日   | (オホーツク海海域) |
| 稚内水試 (北洋丸)    | 平成 11 年 12 月 8 日から同 12 月 9 日   | (オホーツク海海域) |
| 釧路水試 (北辰丸)    | 平成 11 年 11 月 22 日から同 11 月 25 日 | (道東太平洋海域)  |
| 函館水試 (金星丸)    | 平成 11 年 11 月 30 日から同 12 月 1 日  | (道南太平洋海域)  |
| 函館水試 (金星丸)    | 平成 11 年 12 月 6 日から同 12 月 6 日   | (道南太平洋海域)  |
| 中央水試 (おやしお丸)  | 平成 11 年 11 月 24 日から同 11 月 24 日 | (道西日本海海域)  |
| 中央水試 (おやしお丸)  | 平成 11 年 12 月 1 日から同 12 月 2 日   | (道西日本海海域)  |

\* 1 : 平成元年(1989) ~ 平成 10 年(1998)までの平均値を使用しました。

\* 2 : 沿岸モードに対して、津軽暖流が津軽海峡から襟裳岬まで大きく張り出してから南下している状態を「渦モード」と呼びます。これに対して、津軽暖流が青森県尻屋埼からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。



調査期間：1999年11月22日～12月9日  
単位：°C

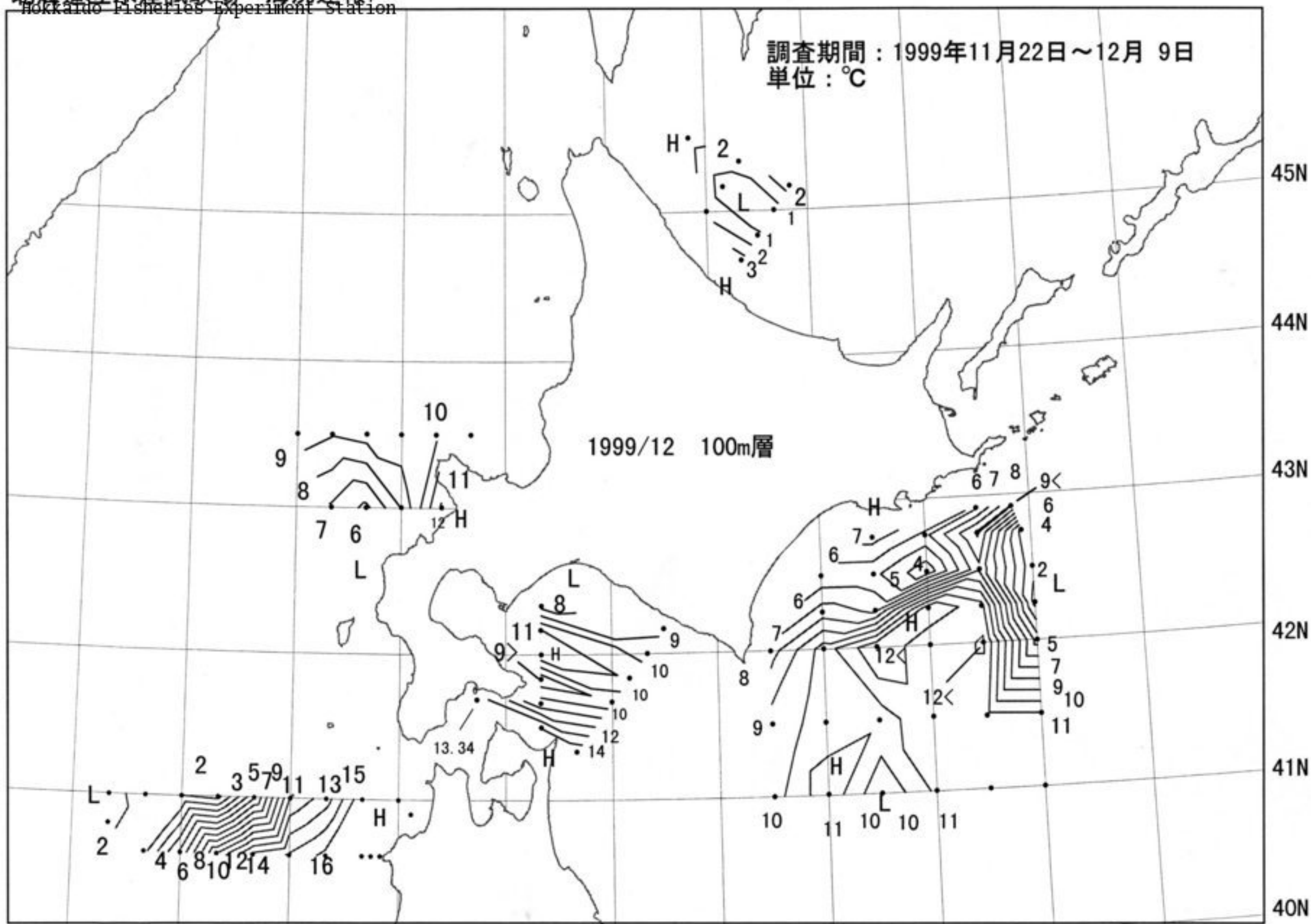


137E 138E 139E 140E 141E 142E 143E 144E 145E 146E 147E

45N  
44N  
43N  
42N  
41N  
40N



調査期間：1999年11月22日～12月9日  
単位：℃



137E 138E 139E 140E 141E 142E 143E 144E 145E 146E 147E

45N  
44N  
43N  
42N  
41N  
40N

調査期間：1999年11月22日～12月9日  
単位：℃

1999/12 200m層  
修正版 (2001/5)

